

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第165号(2020. 12. 1)  
事務局 川西地区自主防災会

## 上高野地区の取組みを紹介します

上高野地区 自主防災会 会長 今井 正

### <地区紹介>

上高野地区は、三豊・観音寺、いわゆる西讃のほぼ中央に位置する豊中町、その南東にあります。財田川と宮川に挟まれ水資源の豊富なところですが、古くから開かれた地域で貝塚や古墳が点在しています。その中でも、妙音寺は古瓦が発掘されていることから白鳳時代初期とされ、古代の讃岐を代表する寺院であったと言われています。法曹宗の上寺として七堂伽藍が整い、法燈が輝き本堂には重要文化財の阿弥陀如来像（平安時代作）が座している姿を想像するだけでロマンを感じます。また、この地域は三重県伊勢の地形に似ており、対比するように地名も宮川や祓川があります。1550年ころ、伊勢の宮伊勢神宮の分霊を迎え伊勢の宮（五十鈴神社）摂社に豊姫神社を祭り、両宮で毎年にぎやかに獅子や太鼓台が乱舞します。



現在の人口は1,969人、所帯数は772世帯、自治会は田井・大地・森安・井手向・片山・後藤・財田上・財田下・普入・福岡・中尾・下原・下原南・下原西の14自治会となっていますが、下原地域以外は人口の減少・高齢化が進んでいます。

### <上高野地区自主防災会沿革>

上高野地区自主防災会は、今から15年前当時の民生委員を中心に社会福祉協議会と共に各自治会に対して要請して結成されました。両会長とも民生委員の中嶋さんが就任し第一歩を踏み出しました。夜間防災訓練の名称は「歩いてみよう会」となっていて、少し変なように思いますが、自治会内から避難所への安全な経路の確認をメインに、自治会内の再認識の意味も込められたものでした。現



在、協議会は（14の自治長・防災委員・福祉委員、小・中学校校長、民生委員、長寿会会長、はなみずき・タンポポ会長、民生委員、地区防災役員、消防団長、分館長、体協代表、PTA、文化センター等）総勢60名を超えるメンバーで構成さ

れています。定例会は毎月、第二水曜日19:00～開催され、11月で152回の開催となります。

防災訓練は年2回、小学校とタイアップして6月（500名規模）と独自に11月（250名規模）の昼間に実施していました。当初はかがわ自主ぼう連絡協議会岩崎会長（川西地区）の指導を仰ぎました。そうした中、転機になったのが2013年、斎藤県議のご助力と宝くじの支援により防災設備の充実が図られました。このころから社会福祉協議会の後、毎回ロープワーク、水消火器、救急救命、担架等の訓練の成果が表れ地区自主防災会が独り立ちし、独自で訓練を実施するようになりました。小学校での訓練は2年スパンで、心肺蘇生・応急手当・搬送・土嚢・丸太切・煙道・バケツリレー・水



消火器・ロープワーク・ナマズの学校・炊き出し、特徴的な訓練としては、ため池が多いことから水難救助や、火おこし訓練を実施しています。他地区への支援も、かがわ自主ぼう連絡協議会の要請で、比地大小学校、仁尾小学校、財田小学校、山本小学校、曾保小学校、観音寺木ノ郷地区、多度津高校、県婦人会議、豊中中学校、豊中荘、民間企業等へ支援に行きました。また、熊本・真備への災害支援にも参加しました。



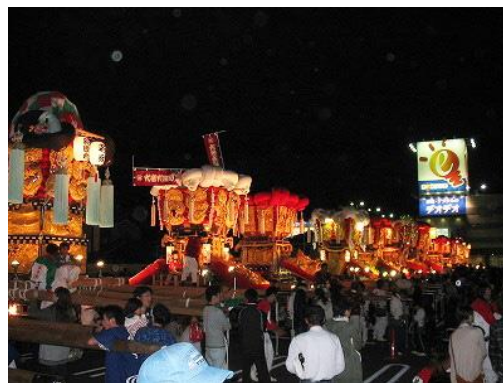
2014年から川西地区が夜間訓練を行っているのを聞き、年2回目の地区防災訓練を夜間訓練とし、1次避難所の自治会場までの避難と担架・ロープワーク・救急救命の訓練を自治会主体で実施しました。一昨年からは消火器訓練に力を入れ取り組んでいます。また、高齢化が進む地域事情を考え救命訓練の充実を図るため、2017年に県の補助を受け、救急救命世マネキン（レサシアン）ファミリー3体・大人3体、AED訓練用を購入。同時に救急救命パンフレットを作成、地区全戸配布を行いました。その他、年1回の三・観広域を招いての救命救急講習会を実施し、夜間訓練で役立てています。一昨年文化センターのご協力により各自治会毎の大地図も配布、避難経路、要援護者を記載し防災・減災に役立てています。



設備の充実は図られたものの、県の設備点検で備蓄品が無いのが指摘され、備蓄品配備に地区1人200円の値上げをお願いいたしました。水・缶詰・おこわ・カレー等、50人×3食×3日分を確保し約600食を備蓄しています。賞味期限が近づいたものは夜間訓練の補助として使っています。

### <文化センター>

上高野文化センターは偏見や差別のない地域社会との共生を目指し、新たな出会いと発見を通じて、つながり合い支え合うことで、住み慣れた地域の中でその人らしい生き方が全うできるまちづくりを目指すことを基本理念として、たくさんの事業を展開しています。



その中で、社会福祉協議会、民生委員、自治会、NPO、長寿会、ボランティア団体など地域社会における様々な機関・団体との連携を行っており、地域のコミュニティセンターとして誰もが気軽に利用できる福祉施設としてたくさんの人たちが活動の場として利用しています。上高野地区自主防災会もその一つです。

### <避難指示発令>

2018年7月6日、朝からの大雨で大雨警報が発令されました。本部役員が文化センターで待機し、池また、河川（宮川・祓川・財田川）の見回りを行っていました。雨も止み解散したのち、財田川下所付近決壊の恐れ「避難指示」が出されました。防災無線、消防車・広報車が避難を呼びかけ、上高野小学校も避難場所に指定されました。駆けつけると市職員がすでに受付を始めていました。大地・田井・森安・井手向・片山等、約80名が次々と避難して来ていました。簡単な地域割りを行い、夕食時となっていたため、非常食（山菜おこわ、ピラフ、水）100食を配布しました。現地の様子などを説明していましたが、午後7時30分頃消防団が解散したとの報を聞き、避難指示解除になる前に全員が引き上げました。



今回は、消防団が見回り中に発見し、市側の対応も手際よくされたと思います。後日、現場を見てみると、直線の箇所でしたが中洲の影響で、堤防の道の近くまで浸食されていた模様です。川は低いところを流れておらずほとんどが天井川でした。では、どの辺が低いか少し調べると、過去には豊姫神社や延命院が水に浸かり、古墳・城址後の高台へ移転したとの記録があり、財田川推定最上位では祓川辺りを流れ井出向で宮川に合流していたと考えられています。上高野地区に災害は少ないと考えていましたが、水害と隣り合わせだったと言うことを再認識しました。

### <近況>

昨年は、小学校・中学校・夜間訓練、プラスワン訓練等諸活動が実施できましたが、今年度は、コロナウイルスの影響で訓練関係がすべて中止の状況です。加え

て、定例会も3密を避けるため各自治会からは自治会長のみの参加が続いていましたが、10月は福祉委員も参加しての講演会、11月は防災委員参加の自主防災会の沿革と組織の説明会を予定しています。また11月28日、上高野小学校では、消火訓練に特化した防災訓練として予定しています。

7月22日、県民防災週間2020シンポジウムにおいて、香川県知事より感謝状が贈られました。長年の活動が認められ、三豊市では3例目となります。防災の本部役員5名が参加し、創設期メンバーの細川顧問が代表して受けました。後日、三豊山下市長を表敬訪問（四国新聞にも取り上げられました）しました。地区の皆さん、役員の皆さんと共に喜び合いたいと思います。

#### <今後の活動>

自主防災として地域の防災・減災の啓蒙啓発に努め、消火訓練・救命救急・避難訓練を「自らに命は自ら守り、助かる命を助ける。」を合言葉に継続していきたいと考えます。







# 最上位旧河道推定図

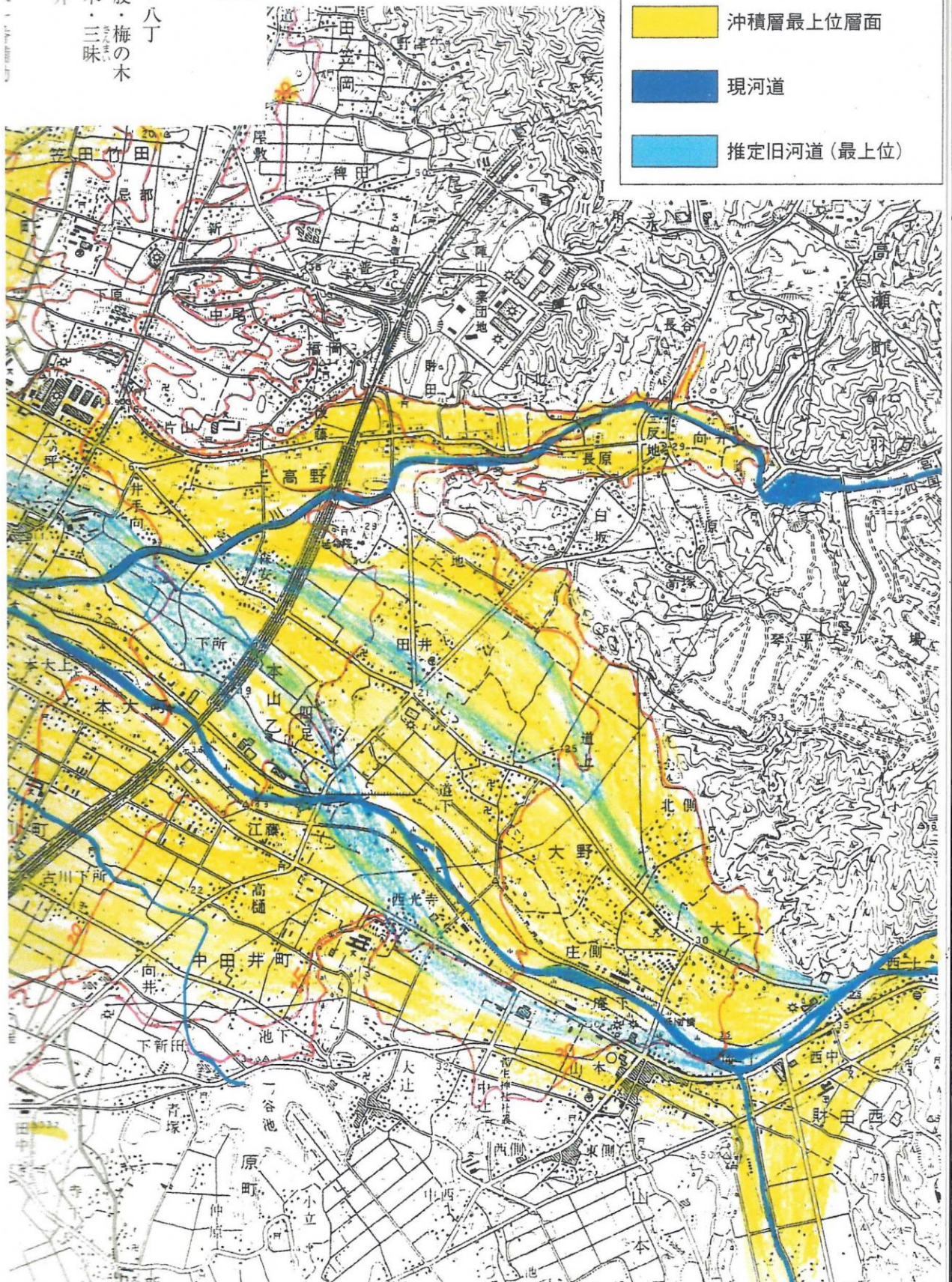
——財田川水系——



凡 例

-  等高線 (赤線: 5mピッチ)
-  沖積層最上位層面
-  現河道
-  推定旧河道 (最上位)

(一) 財田川 (本山)  
 (二) 大野川 (上高野)  
 (北側の川筋) 中州・八丁  
 (南側の川筋) 田井股・梅の木  
 杉の木・三昧  
 堂の井



# 事務局だより

令和2年 12月

今月の事務局だよりは、かがわ自主ぼうの近況をお知らせします。

## 小学校、高等学校との防災研修を実施

コロナ感染防止を折り込んでの防災学習、神経を使いながら実施しました。  
その概略ポイントを紹介します。

(1) 土のう作成積み方訓練

従来砂場にて実施しておりましたが、広い運動場の中に約3トンの花崗土を  
6カ所に分散(5メートル間隔)

(2) 心肺そ生 AED 操作訓練

1グループ3~5名に編成(従来は15名)、となりのグループとの距離を  
4メートル以上空ける

(3) 避難所受付訓練

検温、アルコール消毒、更には、受付時のソーシャルディスタンスを  
確保するため、床面に足模様のマークシートの貼付

## 巨大災害時に発生するゴミの処理場を視察

丸亀市の連合自治会長の研修として、巨大災害時に発生するゴミの処理場として、日本一である「大栄環境グループ」の中核拠点である三重中央開発株式会社へ、11月25日に視察研修を行なった。

・この企業グループは熊本地震で発生した災害ゴミの収集を行ない、1日1,000トンの処理を行ない、50~60%をリサイクル製品として、社会へ還元している。

・災害ゴミの収集契約を行なっている市・町は現在117であって、四国では三豊市と美馬市が締結している。

◎この企業グループの特長的な事業を紹介しますと、

①トランスヒートコンテナシステム

熱資源の供給搬送、廃棄物を焼却する際に出る熱を蓄熱タンクに貯め、コンテナで

広範囲の温泉施設等に供給。

### ②和泉リサイクル環境公園

最終処分場跡地を活用した公園で、約 76,000 m<sup>2</sup>の園内に花の公園や多目的グラウンドを設け、年間 40 万人が来園している。

### ③森林保全事業

全国 32 カ所に森林を保有。自然環境と林業経営の共存を目指し、自立した林業経営・人材育成のトータルコーディネートを行なっている。



## その他

研修地として、滋賀県、三重県内の「まちづくり協議会」並びにリサイクル企業を回ってきましたが、バスからながめた風景、まさしく日本の農地を主体とした原風景を観ることができました。あぜ道、水路にコンクリートが全ったくありませんでした。

## 編集後記

12月の防災減災の輪は、上高野地区自主防災会 会長 今井様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。